

経営者への活きた言葉

ドラッカーの予言(P.F.ドラッカー)

1. 100年以上前、大学という仕組みが日本に誕生したときは、エリート大学は日本にとって非常に大きな強みだった。卒業生は一流企業や官僚を担うキャリアが約束された。賢い若い人たちが大学に行き、彼らが将来エリートになって日本を背負うことを念頭に大学教育はつくられたのだ。けれども現代では、それが日本の弱みになった。その理由は最も賢い人が最も優れたエリート大学に入るのではなく、最もカネ持ちの家の人がエリート大学に行く時代になったからだ。
2. 東大や慶応大学に入った学生の家族の所得層に関する統計を私は見た。富裕層の子どもたちはカネをかけて塾に通い、エリート大学に入っている。結局富裕層しかチャンスはない。それがキャリアにつながってしまうとしたら、エリート層がずっと支配して、カネがない人にはチャンスがないということになる。これではまずい。早急に高等教育改革をする必要がある。
3. 上記 1と 2のドラッカーの発言は1999年であるが、あれから10年余年。日本はまさに貧困問題が社会問題化し、所得格差が広がり、貧困のために大学だけでなく高校にも通えない子どもたちが出てきている。所得の格差が教育の格差と結び付き、人生に持てるチャンスになっている。ドラッカーが危惧した通りとなった。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2011年6月18日号)

ワンポイント経営アドバイス

本田宗一郎語録

1. 作ることに野心があった。そこで、自動車の中で一番難しいピストンリングを選んで、作ることにしたのです。
2. 初めからやるなら「世界一のオートバイでないとダメだ」と思っていましたから、マツカースーを頭に米国人や英国人が大勢、日本に来ている時代に、日本だけでうまくやったってダメと感じていた。
3. 昔から人間は考える動物だと言われてきた。この考える、知恵を絞るということが、実はベンチャーの神髄なのです。
4. 経営者の大切な仕事は、各社員が生き生きと働けるような、好きな仕事につけてやることでしょう。これは経営の腕の見せどころです。

(参考:「日経トップリーダー」:2011年7月号)